

コード No. 18993

## Anti-Human Adiponectin Receptor 1 Rabbit IgG Affinity Purify

容量 : 100 µg

はじめに : 脂肪細胞は様々な生理活性物質(アディポカイン)を分泌していることが明らかとなり、単なるエネルギー貯蔵庫だけではないことが実証されてきました。アディポカインの1つで抗糖尿病作用、抗動脈硬化作用、抗炎症作用を併せ持つ分子であるアディポネクチンが肥満によってその血中レベルが低下していることが明らかにされ、まさにメタボリックシンドロームの中心的存在として注目されています。最近、このアディポネクチンの受容体 **Adiponectin Receptor 1(AdipoR1)** および **Adiponectin Receptor 2 (AdipoR2)** が同定され非常に注目を浴びています。AdipoR1は全身に普遍的に発現しており、その中でも骨格筋に多く発現が認められます。これまで報告されたGタンパク質共役型受容体(GPCR)と異なり、N末端側が細胞内、C末端側が細胞外となるトポロジーを示す事が認められ、構造上GPCRとは異なった新規の受容体ファミリーを形成している可能性が考えられています。AdipoR1は球状アディポネクチンおよび全長アディポネクチンの受容体であり、AMP キナーゼ、p38MAPK および PPARα の活性化を介し、糖新生の抑制および脂肪酸燃焼や糖取り込み促進作用を伝達していることが認められました。このように、AdipoR1の測定は糖尿病関連の研究に有用であるのみならず、炎症、動脈硬化、さらに最近では腫瘍関連の研究にも有用であると言われてしています。

免疫抗原 : Human Adiponectin Receptor 1 の部分合成ペプチド

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1% BSA、0.05% NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定  
: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : ウェスタンブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能

特異性 : Adiponectin Receptor 2 と非交差  
Mouse と交差

参考文献 : 1. Yamauchi T, Kamon J, Ito Y, Tsuchida A, Yokomizo T, Kita S, Sugiyama T, Miyagishi M, Hara K, Tsunoda M, Murakami K, Ohteki T, Uchida S, Takekawa S, Waki H, Tsuno NH, Shibata Y, Terauchi Y, Froguel P, Tobe K, Koyasu S, Taira K, Kitamura T, Shimizu T, Nagai R, Kadowaki T. Cloning of adiponectin receptors that mediate antidiabetic metabolic effects. *Nature*. 2003 Jun 12;423(6941):762-9.  
2. Tsuchida A, Yamauchi T, Ito Y, Hada Y, Maki T, Takekawa S, Kamon J, Kobayashi M, Suzuki R, Hara K, Kubota N, Terauchi Y, Froguel P, Nakae J, Kasuga M, Accili D, Tobe K, Ueki K, Nagai R, Kadowaki T. Insulin/Foxo1 pathway regulates expression levels of adiponectin receptors and adiponectin sensitivity. *J Biol Chem*. 2004 Jul 16;279(29):30817-22.  
3. Tsuchida A, Yamauchi T, Takekawa S, Hada Y, Ito Y, Maki T, Kadowaki T. Peroxisome proliferator-activated receptor (PPAR)alpha activation increases adiponectin receptors and reduces obesity-related inflammation in adipose tissue: comparison of activation of PPARalpha, PPARgamma, and their combination. *Diabetes*. 2005 Dec;54(12):3358-70.